

意見交換会報告書（福祉保険委員会）				
国立市議会意見交換会				
開催日時	令和3年11月9日（火） 午後2時50分から午後4時			
開催場所	国立市役所 委員会室			
出席議員	望月 健一	石井 めぐみ	青木 淳子	古濱 薫
	高柳 貴美代	石井 伸之	住友 珠美	
相手先	フレイルサポーター			
参加人数	7名			
報告内容	【意見交換会の概要】 現在のコロナ禍での高齢者福祉について、どのような支援が必要となっているのか、実際に国立市で介護に従事している事業所・団体の方々とオンライン会議（特別養護老人ホームくにたち苑）や対面での会議（フレイルサポーター）を行い意見交換を行った。 【主な意見】 対面 フレイル予防事業について ・フレイルとは・・・加齢に伴い筋力の低下、活動性の低下、認知機能の低下、精神活動の低下など健康障害を起こしやすい虚弱になった状態のことをいう。 ・フレイルサポーターとは・・・一定の研修を受けて、フレイルチェックを行うなど地域の健康づくりの担い手として活躍するボランティアのことである。 ・他人を理解するには時間を要するが、独居の方などが健康な生活が出来るようにする場所が増えると良い。 ・議員にも積極的に宣伝してほしい。 【その他の意見】 ・中央に大きな施設があると良い。皆で交流できる場が欲しい。 ・団地などでも今は、孤食になっている人が多くなっているため、みんなで集まって食事できる場が欲しい。 ・市内の公共施設を優先的に使えるようにしてほしい。 ・課題は、引きこもっている方をどのように外に出るようにしていけば良いのか。 ・コロナ前はお誕生日会もやっていた。コロナでやめる人もいたが頑張って継続している人もいる。大切な居場所。 ・防災センターの場所が分かりにくい。今ある公共施設の場所をもっと分かり易くしてほしい。 ・”コンパクトシティーくにたち”ならではの介護予防事業を望みたい。 ・コロナで運動機能や社会性が低下しているというデータが国から出ていた。深刻に受け止める必要があると考える。 【意見交換会の集約】 ・フレイルサポーターは地域住民が参加する共助の仕組みとしてあるが、基礎自治体として市役所の行う後方支援（サポート）は重要になっている。体制強化も検討する時期にあると考える。 ・複数人から出た意見として、活動する場所等が足りないといった意見が多く寄せられていた。活動を後押しするためにも、市ができる場所の提供について検討する必要がある。 ・防災センターなどの公共施設の場所が分かりづらいといった意見が上がっていたが看板設置の見直し等、すぐにでも解決できるよう検討が必要。			

国立市議会議長 様

令和3年12月12日

報告者 福祉保険委員長 住友 珠美